

思考が「作る人」になることで おもしろく働ける人が増えていった

面白法人カヤック代表取締役CEO／柳澤大輔

高校時代は部活と勉強とアルバイトに明け暮れる、どこにでもいる普通の高校生でした。ただ、そのどれに対しても手を抜かず、一所懸命、全力で打ち込んでいました。当時は将来の夢や目標、やりたい職業などが特になかったし、身近にこうなりたいというロールモデルになるような人もいませんでした。ただ、深みのあるおもしろい大人になりたいと思っていました。また、漠然とはありますが、会社を立ち上げたいとも考えていました。といっても、偉くなりたいとか成功してお金持ちになりたいということではありません。人の作ったルールに乗っかるのではなく、何でも自分で考えて主体的に生きたいと思っていました。

それで大学を卒業してサラリーマンを2年経験した後、高校時代と大学時代の同級生と3人で「面白法人カヤック」という会社を設立しました。当社はサイコロを振って給料を決めたり、好きな場所で働けたりと、自由かつフラットであることを大事にしています。社員もほぼクリエイターで構成されており、細かいルールでマネジメントしていないけれど、自然とおもしろいものがたくさん生まれてくるというのが理想です。

「面白法人」という言葉に込めた思いはいろいろあります。まずは、クリエイター陣は職場にいる時間が長いので、その時間を楽しくするためにまず自分たちが何でもおもしろがって働こうと仲間と決めました。具体的にはどうすればいいか。ちなみに自分で会社を作ってからは僕は会社に行きたくないと思ったことが一度もありません。それは自分で主体的に会社を作って運営しているから。そういう感覚になったとき初めて会社を楽しめる。だから自分も会社を作っている一人なんだという意識のある人を増やせばきっとおもしろく働ける人が増えると思ひ、それをキャッチコピーの1つにしたのです。

ではどうすればそういう意識をもてるようになるか。もちろん自分で起業したり、リーダーになったりすれば、つまり主体的に組織を作る立場になれば誰でもおもしろく働けるようになります。でもその立場になれるのは一部の人に限られますよね。リーダーじゃない人でもそうなるために当社で実践しているのがブレインストーミングです。ブレインストーミングは5人くらいで集まって新しい事業を生み出そうというときによく使われる会議の形態で、ルールはたった2つ。とにかく質より量でアイデアをたくさん出す。もう1つは他人のアイデアを否定しない。これを繰り返すことで思考が「作る人」になり、おもしろく働く人が増えていったんです。

これは会社だけではなく学校や地域づくりでも同じなんです。例えば、「学校ってつまらないよな」と不平不満を言っているだけでは卒業するまでつまらないままです。そこでどうやれば楽しくなるかを考える側になって、生徒や先生を含めてブレインストーミングをやると、学校を作る側の思考になる。すると日々の学校生活が楽しく、おもしろくなっていく。そして文句を言うだけのネガティブ思考から、問題が起きた時にどうやったらよくなるかを考えるポジティブ思考、課題解決型の人間になっていく。

そのトレーニングを積むのは若ければ若いほどいいので、中学、高校の教育の中にブレインストーミングを取り入れていけばいいんじゃないかなと。そうすればすごい社会になると思うんです。これが高校の先生や生徒さんたちに一番伝えたいことです。

Daisuke Yanasawa

柳澤大輔

やなざわ・だいすけ●1974年香港生まれ。慶應義塾大学環境情報学部卒業後、ソニー・ミュージックエンタテインメントを経て、1998年、学生時代の友人と共に面白法人カヤックを設立。オリジナリティのあるコンテンツをWebサイト、スマートフォンアプリ、ソーシャルゲーム市場に発信する。これまで100以上のサービスのクリエイティブディレクターを務めるかたわら、2012年カンヌライオンズ 国際クリエイティビティ・フェスティバルなど各種Web広告賞で審査員も務める。著書に「面白法人カヤック会社案内」(プレジデント社)、「アイデアは考えるな」(日経BP社)、などがある。ユニークな人事制度(サイコロ給、スマイル給、ぜんいん人事部)や、ワークスタイル(旅する支社)を発信し、「面白法人」というキャッチコピーの名のもと新しい会社のスタイルに挑戦中。2014年12月、東証マザーズに上場。2015年7月には黒板メーカー・サカワと共同で、既存の黒板と電子黒板の長所を兼ね備えたハイブリッド黒板アプリ「Kocri」を開発。

●面白法人カヤック→<http://www.kayac.com/>

●Kocri→<http://kocri.com/>